

V 特記事項

V. 特記事項

1. 多様な学生に応じたきめ細かい学生支援

幼児保育学科ではゼミナール担当教員が、介護福祉学科では「初年次セミナー」（新カリキュラムでは「基礎ゼミナール」および「研究演習」）の担当教員が中心となって学生の支援に当たり、教職員は学科教授会等で学生の情報を共有している。

退学防止策として、教務委員会が行う出欠状況調査に基づき、欠席の増えた学生や成績不良の学生に対しては本人との面談、保護者への通知および面談を行っている。また、資格必修科目の単位が修得できなかった場合は次年度に再履修できるように時間割を編成する、単位互換制度を利用して八戸学院大学で単位を修得させる、科目等履修生として卒業後に単位を修得させる（幼児保育学科のみ）などの支援を行っている。

介護福祉学科には令和 2(2020)年度は 5 人の外国人学生（フィリピン国籍の 2 年生 4 人および中国国籍の 1 年生 1 人）が在籍したが、日本語能力に配慮した丁寧な教育に取り組んだ結果、4 人中 3 人が介護福祉士国家試験に合格し、4 人全員が青森県内の福祉施設に就職した。また、特別支援を要する学生に対して、試験に際して別室を用意するなどの配慮を行っている。

2. 少人数でのアクティブラーニング

両学科ともアクティブラーニングを積極的に取り入れ、グループ・ディスカッション、事例検討、ロールプレイング（模擬保育等）、パワーポイントを使用した学習発表、レスポンスカード、学生による相互評価等を実施している。

教育の効果を高めるため、幼児保育学科ではすべての演習科目および一部の講義科目において、2 クラスもしくは 4 クラスに分けて授業を行っている。ピアノレッスンでは 4 クラスをさらに 4 グループに分けて個々の技能に応じた個人レッスンを行っており、「英語」、「保育内容総論」、「教育課程論」にも教員を複数配置して、進度や学習内容に応じた指導ができる体制をとっている。一方、介護福祉学科は学生数が少ないことから、すべての科目で対話を交えた形式の授業を行うことができている。

3. 法人内各校との連携

学校法人光星学院は大学、短期大学（本学）、2 つの高等学校、3 つの幼稚園を有しており、本学は教育面でも各校とさまざまな形で連携している。学生は単位互換制度を用いて大学の科目を履修することが可能であり、卒業後に地域経営学科もしくは人間健康学科に編入し、学びを深めることもできる。また、令和 3(2021)年度には大学と連携して介護福祉士と社会福祉士の資格を 4 年で取得する仕組みの検討を開始した。

八戸市内の高等学校（特に保育福祉科）とは実習報告会やゼミナール研究成果報告会に高校生が参加する等の交流事業がもたれ、学生の励みや意識の向上につながっている。また、本学の教員が出前授業に行くことで、高校での学びと本学への進学意識を高めている。幼稚園では学生の実習が行われるが、それだけでなく、ゼミナールやサークルの活動で園児と頻りに交流しており、それが幼児保育学科の教育の質を高めることにつながっている。